石炭審、有吉会長を追及

炭鉱災害なぜ減らぬ

保安抜きの生産増強なし

炭労資料から

石炭鉱業審議会が、石炭鉱業合理化実施計画などの方針を決めたことはすでに本紙でお伝えしたが、ところがその討議のなかで、とくに石炭産業に目立つ資本の保安怠慢が問題となり、各委員から有吉新吾・石炭協会会長（三井石炭社長）が、くり返し追及されるという事態があった。石炭鉱業審議会の討議の模様を伝えた炭労の資料によるが、追及は次のように行なわれ、頻発する炭鉱災害に対する一般の目の厳しさをつきつけている。猛反省を求めておく。

正親委員（電気事業連合会副会長）

二千万トン体制への復元の話が出ているが、石炭側が、背伸びして生産量をあげるというやり方は問題だ。たとえば保安問題一つとっても、炭鉱はもっとも保安状況の悪い産業となっており改善のきざしが見えない。これでは、生産を上げるため保安を犠牲にしている、といわれても仕方がない。保安を第一とした体制をつくり、そのなかで果たして何トン出せるのか、計算してみてはどうか。

有吉委員（日本石炭協会会長）

保安を犠牲にして生産をあげるというような考えは毛頭ない。ただ深部移行に伴って、理論的にも完全には究明できていない災害も発生しているのは事実であり、目下その究明に全力をあげているところである。

正親委員　いい方が悪かったかも知れないが、炭鉱災害がいっこうに減っていないような気がするが……。

有吉委員　災害発生率は、ひところの四分の一に減っている。

失対部長（労働省）

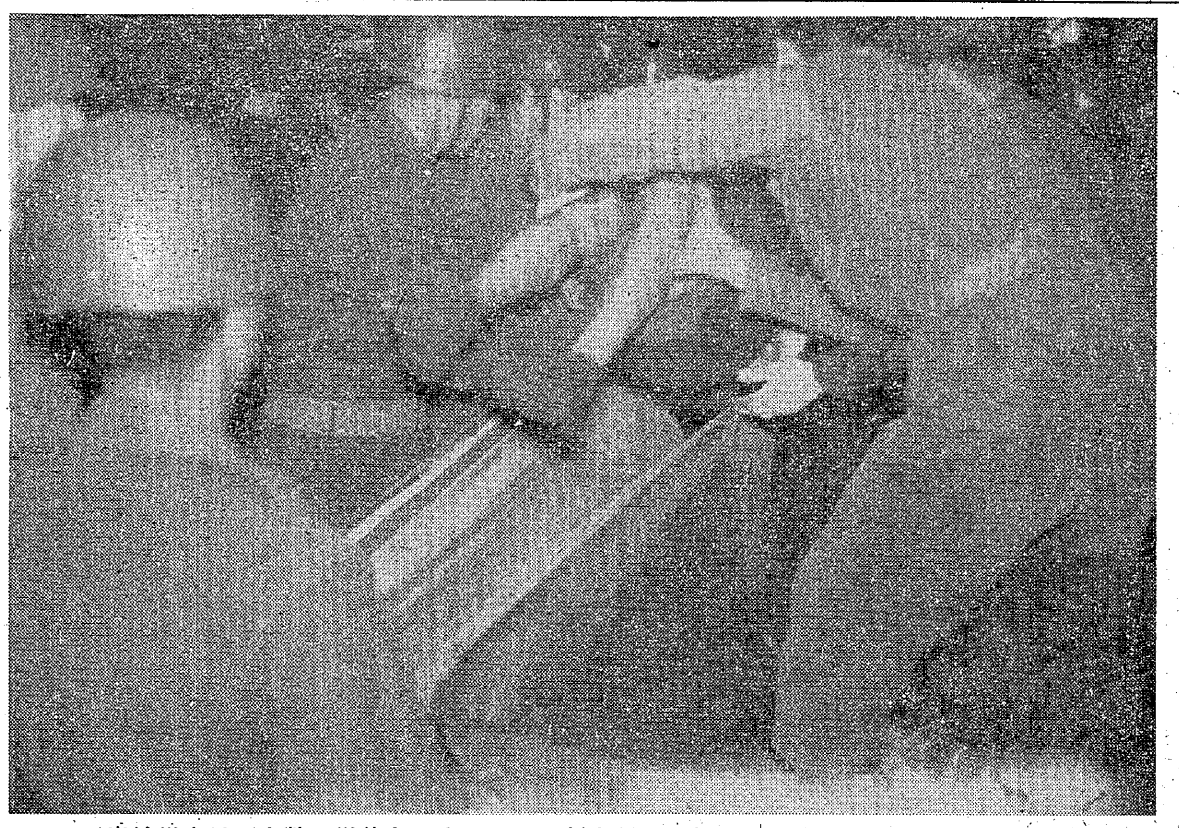
ベストを尽しているというが、現実に大災害があとを絶たないのが現状だ。労働力確保の大きな障害になっている。今後、敵善の対策で取り組むべきだ。

森田委員（炭労委員長）

組合としても、保安第一主義に立った操業方針を強く要求してきている。生産増強のため、保安を犠牲にするようなやり口は容認できない。

×

以上、炭労資料から抜すいしたが、有吉石炭協会々長は、各委員の追及にこたえて、災害発生率が減ったとか、深部採炭に口実を求めるなど、とぼけた答え方をしているが、同会長は、三池炭鉱で、保安部預けや現場預けなどの手段での公傷隠しが公然と行われ、また今日相次いでいる災害は、深部採炭などを原因とするよりも、ほとんどが保安対策のABCを会社側が怠ったがゆえに、ひき起こされている。そんな事実に目隠しするような態度こそ、今も炭鉱災害を頻発させ、いたずらに石炭産業を危機に追いこんでいく原因の一つ、になっていることこそ重大だ。



炭鉱災害は、多数の労働者をまきこむのが常だ。これは、三池大災害のときかけつけてきた自衛隊の救助活動。二度とくり返すことはしない、と三井鉱山は誓つたはずだつたが……。その後も、くり返されていく災害。

今年42人が災害死

何を物語るか、炭鉱の現状

石炭産業では、世のなかの歩みに逆行して、今年は事故・災害が激増、十一月末日現在で四十二人という災害死亡者を数えた。

五月など、南大夕張炭鉱ガス爆発も起きて十八人の死者を出し、また四十二人のなかには三池炭鉱の四人の死者が含まれている。別表〝炭鉱の災害死亡の推移〟は、いったい何を物語るか。

炭鉱の災害死亡の推移

（三池大爆以降の分。炭労資料から）

年次	炭鉱数	死亡数（三池）
39年	151鉱	159人（11）
40	119	406（13）
41	107	128（7）
42	83	110（16）
43	66	71（10）
44	47	65（9）
45	35	48（7）
46	27	29（7）
47	19	23（5）
48	16	19（8）
49	12	8（6）
50	8	12（4）
51	8	9（2）
52	6	12（2）
53	5	10（7）
54	—	42（4）

注＝54年度は十一月末日現在。

七重点目標きめる

荒尾地評定期大会で

荒尾地評（正しくは荒尾地区労働組合評議会）は、先に第二十五回定期大会を開催、まず八〇年代の初年度にあたる来年の運動方針を確立、きたる一年間〝八〇年国民春闘〟など七つの重点目標をきめ、闘う決意を固めた。

大会は、同市の向一部公民館で十一月二十四日に開催された。そして、今年の、三池合板闘争や全逓荒尾の反マル生闘争ほか重要な闘いの経験をふまえ、さらに闘いを発展させる運動方針を確立したもので、「反独占・反自民の視点をもった反合理化闘争の強化」を闘いの基調にするというのは当然であろう。

なお、重点目標ときめた七項目は、次の通りである。

(1)八〇年国民春闘（地域闘争）の取り組み。
(2)地校協運動の強化。
(3)参議院議員選・市長選闘争。
(4)未組織労働者の組織化。
(5)一般失対・緊就事業存続の闘い。
(6)青婦協運動の強化。
(7)一般消費税導入反対。
※　実践課題は省略。

荒尾市バス料金値上げ強行

荒尾市（鴻之江市長）は、市民の間からあがった反対の声も聞かず、このほど市営バスの料金値上げを強行した。

それによると、市営バスはこれまで六十円だった最低料金が七十円に引き上げられ、それに応じて全区間が引き上げられるもので、値上げ率は一八・一％と大幅。

直接営利を目的とした産交バスや西鉄バスなみの料金だとして、これでは市民の足として話にならぬと、市民の間に不満が強い。

なお右の、市営バス料金値上げについては、市民の足を守る共闘会議が結成され、①公共料金の一方的値上げ反対。②バス運行の安全性の確保。③市民サービスの拡充――の三項の要求を市に提出、強く反対したが、最後に市当局の手で押し切られたもの。

多摩に解放戦士の碑建立

総評、社会党、護憲連合などが主催する「一九七九年解放戦士合葬追悼会」が十一月二十二日の午前中、東京・お茶の水の全電通ホールで開かれ、二百十九人の同志が合葬された。

〝同志は倒れぬ〟の合唱ではじめられた追悼会は、午後から会場を西多摩霊園に移し、建立された「解放戦士の碑」の除幕式を行ない、合葬者の氏名を刻んだ銅板を納入した。

なかま

四山指導部　引田慶一さん

▼…四山鉱の、仕繰部内で働く引田さん。四山指導部のなかでは三十代の多い職場ですが、やがて四十代の仲間入りをする人であります。

通称は〝けいちゃん〟。犬の飼育とスポーツが趣味であります。いま飼っている犬はレッキとした血統証つきの柴犬。

スポーツは何でもやる人ですが、そのなかでも、自分にうち勝ってこそ初めて勝利をもたらすというマラソンにひかれているのであります。団結と連帯のきずなが力となる駅伝の勝利は格別だとか。まさしく、四山指導部のホープというところであります。

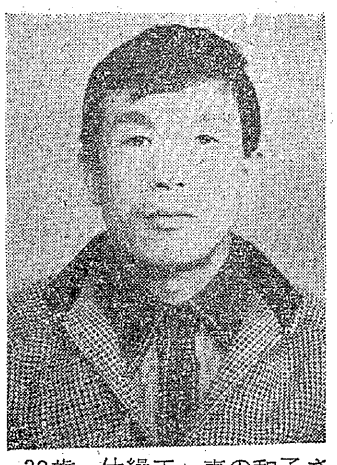
会社から帰ったら、組合関係の会議や動員がないかぎり必ず愛犬と共に走っているしかえって犬君の方が先にバテると聞くほどの元気さであります。

▼…根性は、大きな口もたたかず、目立たないようでも組合活動では、職場の文化・体育関係の催しの企画・実践になくてはならない存在であります。

人柄そのものが大変明るく職場や地域での世話はゆきとどき、組合員は別として、新労組員仲間からさえ信頼をあつめているのであります。まずは、三池の闘いの縁の下の力もちというところ。

根性の〝けいちゃん〟は、これからも愛犬と共に走り続けることでありましょう。

（四山＝宮崎　勝・記）



さ・39歳、仕繰工。妻の和子（女・2人）との間に子供（女・男）。荒尾市大島社宅36棟に居住。